

四旬節第4主日の説教

金 大烈 神父 2011年4月3日(日)

《一人ひとり、みんな大事な存在、尊い存在》

主の平和。

今日、私たちは一緒に答唱詩篇を歌いましたね。「主は我らの牧者。私は乏しいことがない。」これは本当でしょうか？ 本当にこれは自分のことだ、と思われるくらいこの気持ちを強く感じられるのでしょうか？ 自信がないのではありませんか？ 率直に言いましょう。乏しいことがないくらい神様を自分の牧者として暮らすことがどのくらい難しいか、私たちはよく体験しています。もし、本当にこのような気持ちで毎日を過ごすことができれば、その人は天国に生きていることになると思います。とにかく、心から、「主は私の牧者、私は乏しいことはありません。」という告白ができるように、恵みとして求めなければならないと思います。

震災が起こってから、私はNHKの放送ばかり見ていますが、放送の中でよく聞き、知らないうちに覚えている言葉があります。

『心は誰にも見えないけれど、心遣いは見える。思いは見えないけれど、思いやりは誰にでも見える。』

皆様も覚えていますよね。よく聞かれたのでしょうか。これは、人々にとって何よりも必要な態度ではないかと思います。どのくらい心遣い、そして思いやりを見せながら、今の瞬間を生きているか振り返ってみましょう。

私は、今日のミサの前に皆様に、『一人ひとりがどのくらい大事な存在であるか。尊い存在であるか。』強く集中して黙想が出来るようなミサになっていただきたいと申し上げました。ここで、ある詩を紹介させていただきます。詩の題名は、「美しいと言いなさい！」です。

美しいと言いなさい！

美しいと言いなさい、人よ。

神様が 美しく創られたあなた！

美しいと言いなさい。

息をしながら動いているこの一瞬。この一瞬を囲んでいるこの山と森。

この風、日差し、人々。人々の間で歩むこと。

時たま、手におえなくても、美しいと言いなさい、この痛みさえ。

美しいと言いなさい、人よ。

神様が 美しく創られたあなた！

美しいと、美しいと。

時たま、大変であっても、苦痛さえ美しいと。

人よ、神様が美しく創られたあなた、美しい人よ。

美しいと言いなさい、人よ。

神様が 美しく創られたあなた！

美しいと、美しいと。

時たま、手に負えなくても、苦痛さえ美しいと。

人よ、神様が美しく創られたあなた。

美しい人よ。

美しいと、美しいと。

時たま、大変であっても、痛みさえ、美しいと。

美しいと、美しいと。

息しているこの一瞬、全てが、あらゆるものが美しいと。

人よ、神様が愛によって創られたあなた、美しい人よ。

どうですか。美しい詩だと思いませんか？

これは目の見えない人が書いた詩です。生まれつき目の見えない人が書いた素晴らしい詩です。皆様よくご存知の聖フランシスコが、視力を完全に失ってから書いた「太陽の賛歌」にも似ている内容ではないかと思います。

皆様は美しいです。今の姿が美しいと言うのではなくて、もともと美しく生まれたのです。なぜならば、愛そのものである神様が命を注いで作られた存在だからです。皆様は、その美しさをどのくらい保ちながら生きているのでしょうか。この詩を聞かれて、「ああ私は、そのような美しさを見つけれない」と思われる方は、取り戻してください。もともと美しいのだから、すぐに取り戻せます。これが、カトリックが 2000 年間教えた一つの真理の力です。もし悔い改めることができれば、誰でも神様が最初にくださった尊さを取り戻せます。美しさに戻れます。しかし私たちは、自分で自分を責めることばかりしています。「私は駄目だ。今まで犯した罪が山ほどあるから、これはできない。自信がない。」と言う方は、ある意味で一番大きい罪を犯していることになります。

皆様には、ご自分が持っている美しさを拒む資格はありません。なぜならばその美しさは神様のものだからです。もし私たちに「ああ私は本当に神様から尊い命をいただいたのだから、美しく生きなければならない。」という思いがあれば、他の人の心の中にもその美しさが見え始めます。

皆様、よく考えてください。私たちは美しい存在です。自分で自分を汚いと責める資格はありません。そういう気持ちがあったら、精一杯力を出して、もとの美しさを取り戻そうと頑張ればよいのです。それが私たちにとって一番大事な宿題かもしれません。

私たちは仕方なく汚れます。何をしても、どういう気持ちで生きても、やはり汚れます。しかし神様は、誰よりもよくご存知です。私たちに「あなたがくださったもとのところに戻りたい」という強い願いがある限り、あの方はいつも私たちを受け入れてくださいます。それがこの信仰の神秘でしょう。その神秘を信じてください。その神秘に委ねてください。それがなければやはり、自分の顔を見

たかくなります。鏡を全部壊してしまいたいくらいの汚れが、私の中にもたくさん見えます。皆様も同じ気持ちではないでしょうか。自分のことを少しでも深く考えてみれば、人を指させる立場ではないことがよくお分かりだと思います。

皆様、今日の福音(ヨハネ 9・1、6-9、13-17、34-38)では、目の見えない人の目がイエス様によって開けられました。肉体の目は、いつか見えなくなります。だから、とこしえに持って行かなければならない「霊的な目、心の目を開いてください」という願いが何よりも必要ではないでしょうか。はっきり見える、ありのまま見える目が、私たちの目になるように願いましょう。

皆様、もう一度改めて申し上げます。皆様は一人ひとり、みんな大事な存在です。その大事さ、尊さを軽んじないように、無視しないように、お願い致します。

ありがとうございました。